

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200133		
法人名	株式会社 ケアネット		
事業所名	会津サービスセンター グループホームあいづ		
所在地	福島県会津若松市門田町工業団地37-1		
自己評価作成日	平成25年9月26日	評価結果市町村受理日	平成26年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市泉堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様が今までの生活スタイルを出来るだけ継続できるように、「自分らしい生活ができるケア」「安心して生活ができること」を目指して取り組んでいます ご利用者様一人ひとりにより添った「十人十色の幸せ探し」ができるケアを目指し、そばで支えるケアを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら対応しており、利用者が落ち着いて、自分のペースで生活している。 2. 利用者の身体機能の維持につながるよう、日常生活の中で食事や掃除の手伝い、手指訓練を意識した作品作り、食前口腔体操、リハビリを兼ねた運動、散歩等の支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で作り上げたものであり、共有スペース・休憩室等いつも目に入る場所へ掲示し理念の実践に努めている。一人一人に寄り添いその人らしく穏やかに暮らし続けられるよう職員全員、理念に沿った介護を心がけている	今年、地域との関わりを加えて、理念を見直した。職員間で共有出来るよう、玄関・休憩室等に掲示し、会議や勉強会で話し合い実践に繋がれるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや運動会等の行事には出来る範囲で積極的に参加し地域の皆様に支援していただきながら交流を図っている。保育所の訪問、中学生の職場体験、短大生の見学なども受け入れ事業所を開放している	運営推進会議で把握した地域行事(お祭り、運動会等)には、利用者と一緒に積極的に参加している。また、事業所へは保育園児、中学生(職場体験)、ボランティアを受け入れる等双方向で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々やご家族にも認知症の理解を深めていただけるようにしている。GHの存在や役割についても理解していただけるよう話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し、GHの活動内容等を報告し地域の方や包括支援センターと常に情報交換しサービスに反映させている。これからの問題点やGHの在り方等も話し合っている	運営推進会議は定期的開催されており、事業所から活動内容を報告し、委員からは避難訓練や地域行事等への意見等出してもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の災害等についても市役所から頂いたり、密にコミュニケーションととっている。介護保険のことで疑問に思ったことなど相談し、ご協力を頂いている。短大生の実習時に市役所担当者も来所し、GHの状況などを説明している。	震災後、行政から台風等の災害の後で状況確認の連絡が入るようになった。また、少しの疑問でも電話で確認する等、サービス向上に努めている。市の担当者が実習生を連れて来る等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員各自、身体拘束をしないケアの重要性を理解し共通認識を持ってケアを行っている。事業所として委員会を開催し、研修などにも積極的に参加し、研修のフィードバックとして内部研修を開催し、身体拘束についての理解を深めるよう取り組んでいる	法人の「身体拘束廃止・苦情解決委員会」や外部研修会に参加し、事業所では伝達研修を行い、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、職員相互で言葉による拘束等が無いよう気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自身の行動を振り返って考え、職員間でも意見を出し合いながら日々のケアがご利用者様中心の考えから外れないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族が高齢になるケースもあり、後見人手続きをご家族と相談しながら対応している。後見人制度を利用している方については、後見人と日常的に連絡を取りながら支援を進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご利用者・ご家族へ重要事項・契約書の内容を説明し、入所時にも再度説明し、捺印を頂く様にしている。介護保険の改定時などは重要事項を細動説明し同意いただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用様とご家族に出席していただき意見を頂いている。ご利用者様については日常的に、ご家族については面会や受診対応時に頂いた要望などを速やかに対応するように心がけている。	家族の面会時、運営推進会議参加時、利用者の通院同行で来所された際に家族の意見や要望等を聞き取り、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議で問題点を話し合い改善していくようにしている。その他、リーダーを中心に業務の改善を提案し、センター長・センター長代理・管理者を含めた話し合いを行っている。必要に応じ、センター長の面談を行っている	管理者は、年2回の個別面談、職員会議、申し送り等日頃の関わりの中で、意見、業務改善の提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇希望を取り入れた勤務表を作成している。年に2回、管理者は職員に面談し、仕事・プライベート含めた現在の心境や体調などの話をうかがっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会の参加出来るようにしている。外部の研修についてはスキルやなどを把握して参加を促し、職員に偏りのないようにしている。介護福祉士資格取得について、研修参加についての勤務調整等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に入り、研修会に参加している。他のGHとの情報交換をすることで、自事業所の現状の確認や新たな目標設定などにもつながっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、ご利用者の要望や状況を理解した上で、入居してからもご利用者様とのコミュニケーションをとり安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、契約説明時、入所時にご家族の要望や不安を聞き説明を行っている。面会時や電話でも不安や要望を聞いて安心できる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所直後は生活環境が変わる為、要望や体調を見ながらケアに努めている。ご利用者様や家族の話を聞いた上でご利用者様が一番必要としている支援を話し合い努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることを活かしたお手伝い等と一緒にいる中で、ご利用者様の心に寄り添い共に信頼できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で現在のご利用者様の状況を伝え、理解していただき、ご家族だからできる支援をお願いすることもある。ご家族のきずなを大切に支えていく関係を築く努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用してきた美容室や自宅、お墓参りなど、なじみの場所やなじみの人との関わりを絶やさないようにしている。面会時等もまた来たいと思って頂けるような、気兼ねのない環境を提供できるようにしている。	墓参り、美容院、病院等には家族に送迎してもらい外出しており、関係が途切れないよう支援している。また、職員と自宅付近までドライブにでかけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や行動を把握し、ストレスやトラブルを減らし、楽しく生活できるように居間での座席の位置に配慮したり、目配り気配りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方について、退所先での様子をご家族へお伺いしたり、入院先へお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの会話やコミュニケーションの中から、気持ちをくみ取り、できる限り意向に添えるように努めている。センター方式によるアセスメントを行い、職員同士話し合いながら利用者本位の対応を検討している。	毎日のケアの中で思いや意向を把握し職員間で共有している。把握が困難なときは、家族の意見や意向を聞き、利用者本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や面会に来た方には、これまでの生活歴や暮らしぶり、人付き合いなどを伺い把握するようにしている。ご利用者様にも会話の中で今までの生活について話を伺い記録に残すようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて声かけしながら気持ちよく過ごしていただけるように対応している。ご利用者様の能力を決めつけずに隠れた能力を引き出す努力をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用い、担当者会議で介護計画についての話し合いを行っている。ご利用者様、ご家族それぞれの考え、思いを聞き取り、それを職員が共有し介護計画に生かし継続できるようにしている。	利用者・家族の意向、利用者の心身状況、職員の気づき、モニタリング結果等を基に現状に即した介護計画を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し申し送り、新たなケアの提案についてはカンファレンスを開催し、情報共有とケアの工夫、よりよりケアの実践を迅速に行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診などはご家族にお願いしているが、急に都合が合わなくなった時などはこちらで対応している。その他、馴染みの美容室への対応等もご家族と相談しながら進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等で地域資源の把握や地域の皆様との交流に努めている。事業所自体も地域資源となれるよう、行事等で地域の方との交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を大事にし受診している。ご家族にも状況を把握していただくため、受診対応しているが、その際には書面にて日常の様子やデータなどをお渡しし、ご家族にも医師にも伝わりやすいようにしている。緊急時や対応が難しい場合はGHでの受診対応を行い適切な医療を受けられるようにしている	従来からのかかりつけ医を継続し受診している。基本的に通院介助は家族にお願いしており、利用者の現状を書面にて説明しながら、適切に医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やバイタル異常等あった場合には、職場内の看護職に連絡し、その都度対応していただいている。 また、週1回看護職に現状報告・相談し、アドバイスや指示を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態をご家族に伺ったり、病院に連絡をしたりして状態を把握するようにしている。 退院時には、再アセスメント行うとともに、医療関係者と連携を図り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期の対応について、重度化に対するGHの方針をご家族と話し合った。 状態の変化などはご家族へ報告し、今後予見される状況を報告し将来的な方向性も相談している。	重度化対応指針を策定し入居時に家族に説明している。現在、医療連携体制は取っていないが重度化した時は医師の判断のもとに関係者と再度話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習やAEDの使用方法を全員が理解し、急変時のマニュアルを作成し、対応方法の確認を行っている。 定期的に救命講習も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月 様々な場面を想定した避難訓練を行い、避難経路の確認、ご利用者様の誘導など問題点を見出し改善しながら訓練を継続している。その他、事業所全体での避難訓練も定期的に行っている。 また、備蓄品の確保や非常持ち出し袋の準備など行っている。	昨年の外部評価の結果を受けて、今年から毎月自主防火訓練を行っており、消防署の立会い訓練も実施している。備蓄の準備もあるが、地域の協力体制が構築されていない。	運営推進会議の委員の協力等を得る等して地域の協力体制を構築して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気を保ちつつ、言葉を選びながら、プライドを傷つけないような言葉かけをしている。 その方に合った方言や話し方に努めている。	入浴やトイレ介助の際は、プライバシーを損ねないよう特に配慮しながら対応している。リスク・コンプライアンスに関する職員研修があり、個人情報に関わる書類の取り扱いは適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の訴えはその都度聞くことはもちろん、表情や行動もよく観察し相手の気持ちを考えて対応するよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調により柔軟な対応ができるように心がけているが、食事時間などこちらに合わせていただく場面も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に沿って、化粧や洋服は選んでもらうようにし、できない方にはその方の好みものを選ばせて頂くようにしている。整髪など鏡を見て自分で行っていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	買い物や調理や後片付けなどはご利用者様にお手伝い頂いている。 食事や旬のものや畑で採れたものを提供したり、会話が弾むように気を配り、楽しく食事ができるようにしている	日常の会話から好みの食べものを把握し、旬の物や畑で採れた野菜を取り入れた献立となっている。テーブル拭き、料理、後片付け等利用者の出来ることは手伝ってもらい、食事は職員も一緒にテーブルを囲み、会話しながら楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや状態により食事形態も工夫し提供している。また、管理栄養士にチェックをしていただきバランスのとれた食事を提供できるようにしている。体重や飲み込みに問題がある方などは更にアドバイスを頂き、食事や水分量確保の方法などに工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている。毎食前には口腔体操行い唾液腺の刺激等も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、ひとりひとりのペースや排泄意のサインを見逃さないようにし、声かけやトイレ誘導により失敗なく排せつできるように支援している	一人ひとりの排泄パターンや排泄サインに合わせて、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、便秘傾向の方には腹部マッサージをしたり、朝の冷たい牛乳提供や多めの水分補給などに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴していただけるような雰囲気作りをする。入浴を拒む方への言葉かけ、タイミングを工夫している。 しょうぶ湯やゆず湯などで季節感も味わって頂いている	利用者の希望、体調に配慮しながら清潔保持のため週3回の入浴支援を行っている。嫌がる人へは、言葉掛けやタイミングを工夫し対応している。また、季節感が味わえるよう変わり湯等も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の体操などで生活のリズムができるようにすることとあわせて、一人ひとりの生活リズムを考えながら、日中は散歩やお手伝いなどで生活のメリハリをつけ、夜間眠れない時は、ゆっくりを話を伺ったり、温かい飲み物を提供したり、部屋の室温・湿度に配慮したりして、安眠できるよう援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表で、一人ひとりの薬について、把握できるようにしている。薬の変更があった場合には、申し送り全員が把握できるようにしている。受診時には薬変更後の様子についてきちんと伝え、適切な服薬量となるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や希望に合わせて役割を持っていただき、頼りになる存在になれる場面を作っている。メニュー書きや生け花、調理、畑仕事など、得意とするものを見つけ、喜びを感じていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に同行していただき、日常的に外出できる機会を設けている。 GHの行事として地域行事に参加したり、個人の希望する場所への外出支援を行っている。	日常的な買い物に同行してもらったり、地域行事に積極的に参加する等外出の機会を設けている。また、事業所全体で昼食を持って紅葉狩りに出かけたり、家族とお墓参り、美容院等に行く等外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、職員で管理をさせていただいているが、買い物や外出時には自分で支払いをさせていただいたりしている。持っていないと不安がある場合はその都度お話し、安心してもらえるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話線はない為、希望時に事務所内からかけて頂くようにしている。 ご家族へ年賀状を送っているが、記入が難しい方はスタンプを押してもらったり、名前だけ書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所はなるべく家庭的な雰囲気にし、壁の装飾等で季節感を出すようにしている。 居間や玄関に花を活けていただき、明るくやさしい雰囲気作りに努めている。 また玄関・浴室・トイレ等は清潔に努め、快適に過ごしていただけるように配慮している	共用空間には、利用者が活けた季節の花を飾り、行事写真や利用者と一緒に作った作品が掲示されている。ソファやテーブル・椅子等、一人ひとりが思い思いに好きな場所でゆったりとした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とお話しできるようにソファや炬燵を準備し、食事時の座席にも配慮するようにしている。テラスでの夕涼みや日向ぼっこ等も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族の写真やなじみの物や愛用品を持参していただき、その人らしいお部屋になるように支援している。 仏壇持参の方の中にはお茶やご飯のお供えをする方もいらっしゃる。 日々の清掃により清潔保持に努め、温度湿度にも配慮して心地よく過ごしていただけるようにしている	これまで自宅で使っていた物を持って来て頂き、安心して生活が送れるよう支援している。 入口にのれんを下げ、プライバシーを守り、家族の写真や趣味の物を飾る等、一人ひとりが思い思いの部屋作りをしている。仏壇に毎朝ごはん・お茶などをお供えされる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを全体的に設置しており、自立を促している。ベット柵はADLに応じ大きさや形を変えて対応している。 トイレでの注意書きを個別に記入したり、座席に名前をつけたりしている		